



くわ入れを行う小沢昌記市長

者である小沢昌記市長が「胆沢区住民の安全安心をより確かなものにした。西には焼石岳もあり、ヘリポートの整備により、迅速な救援活動ができる」とあいさつしました。

移転新築する水沢消防署胆沢分署の工事安全祈願祭が6月28日、旧胆沢高校グラウン

ドで行われ、関係者約50人が出席し、工事の安全を願いました。神事に引き続き、管理

【消防署胆沢分署の工事安全祈願祭】



設立総会で会長挨拶をする小沢昌記市長

市民憲章推進協議会の設立総会が6月25日、江刺総合支所で開かれ、市内各地区の住民自治組織役員など約100人が出席しました。会長には小沢昌記市長を選任。規約や役員承認のほか、本年度事業として市民憲章推進大会の開催、会議やイベントでの市民憲章の唱和、刊行物への掲載などにより一層の普及啓発を図ることを決定しました。

【奥州市民憲章推進協議会が発足】



土産品を手渡す参加者代表(右)

水沢区の児童代表11人が6月27日から29日の3日間、北海道長沼町を訪問しました。18回目となる本交流事業は、姉妹都市である同町を理解し、開拓の父として讃えられる本市出身の吉川鉄之助さんの功績に触れることを目的に行われています。一行は、西長沼小学校を訪問し、お互いのまちや学校を紹介するなどして交流を深めました。参加した佐藤美月さん(水沢南小6年)は、「長沼町と鉄之助さんのことをよく理解できた。また行ってみたい」と語りました。

【長沼町で交流】



記念品を受け取る久子さん

市は6月に満百歳を迎えた2人に記念品を贈り、長寿を祝いました。及川久子さん(前沢区字平小路)は同区字下小路に生まれ、小学校卒業後は親戚宅で手伝いとして働きました。20代で5歳年上の故・公平さんと結婚。2男2女をもうけ、孫8人、ひ孫7人に恵まれました。結婚後は専業主婦として家庭を守り、家族の健康管理に気を配っていました。「好き嫌いがなく何でもよく食べるが、特にグラタンが好

【おめでとー！百歳を祝い2人に記念品】

き。趣味といえば昔から縫い物が好きだった」と語るのは、次男の隆夫さん。長寿の秘訣は、食べたいものを食べ、好きなことをする。ストレスをためず、自然のまま生きることでだと言います。「親戚や周りの人に助けられた」と感謝の気持ちをおぼえているという久子さん。小野寺正幸前沢総合支所長から記念品を受け取ると「皆さん、本当にありがとうございます」と嬉しそうに話していました。千葉ハツミさん(江刺区米里字荒田)は同区米里出身で24歳で同じ米里出身で2歳年上の故・亀吉さんと結婚。5男4女をもうけ、孫12人、ひ孫9人に恵まれました。亀吉さんは木材運搬の仕事をしていましたが、兵役の期間が長く、1人で家事と子育てをしたそうです。子どもが多かったため、自分の食べる分も子どもたちに食べさせてくれるような母だったと、ご家族が話してくれました。

みなみ また  
**南股地区会**  
 ■代表者：会長 菅原 英記  
 ■人口：583人(男290人/女293人)  
 ■世帯数：156世帯  
 ■拠点：南股地区センター  
 (衣川区沼野38 ☎023644)  
 (平成24年5月31日現在)

**結** ③  
-ゆい-  
 ~ 30の地区振興会による協働のまちづくり実践事例 ~

特色のある地区振興会の事業を紹介するこのコーナー。シリーズ3回目は、衣川区の南股地区会を紹介しします。

南股地区は、衣川区の南端に位置し、一関市巖美町に隣接しています。平成18年3月に廃校となった南股小学校を再活用した「南股地区センター」を活動拠点とし、5つの行政区があります。南股地区会は、19年4月に設立。住民アンケートを基に、20年度に策定した地域コミュニティ計画では、地域づくりの理念を「住民自身が地域の魅力を磨く、近所の力、『自助、近所(助)、公助』の南股」と定めました。南股にある素材を生かした魅力ある事業の一部を紹介します。

■合同子供会キャンプ

毎年7月に、地区内の3子供会との共催によるキャンプ



地区の財産、南股川

が、地区センターと南股川を会場に行われます。1泊2日の日程で、地区内の小学生ら約30人と親など、あわせて60人から70人が参加。その他、幼稚園児やOBの中学生、帰省中の子どもたちが参加することもあります。キャンプでは、定番のレクレーションや野炊、肝試しなどを行います。南股ではカヌー体験が人気。1艇に4、5人が乗り、大人も同伴するので初めての人も安心して楽しめます。昨年は、南股カヌーの評判を聞いた他地区の子どもたちも参加し、大歓声を上げていました。同会では、子どもたちが安心してカヌー体験や川遊びが

■南部神楽シンポジウム

代表的な伝統芸能の一つである神楽ですが、衣川区には4つの神楽があります。そのうち、大原神楽と川内神楽の2つがある同地区。各地の祭りや大会などで神楽を見る機会はあるものの、話す場がないことから、23年12月に南部神楽シンポジウムを初めて開催しました。



南股川でカヌーを楽しむ子どもたち

開催に当たっては、市の「協働のまちづくり交付金」を活用。約250人が詰め掛けた会場では、基調講演に続き、地区内2つの神楽をはじめとする5団体が式舞を上演しました。その後、大森神楽保存会会員の矢崎木綿子氏をコーディネーターに、パネルディスカッションが行われました。パネラーとなった各保存会代表からは、後継者のことや演目をどうするかなど、神楽伝承についての現状や課題が話され、課題解決に向けての取り組みなどについて討論しました。同地区の潜在資産である神楽に焦点をあて、磨きをかけ、地域の魅力をアップするための機会となりました。今後も継続して開催する予定です。



神楽の舞を堪能する参加者たち